

あなたは命を選びなさい

申命記 30 : 15 - 20



司祭 ヨハネ 井田 泉

2022年9月4日  
聖霊降臨後第13主日

上野聖ヨハネ教会にて

今日の旧約聖書は申命記から朗読されました。旧約聖書の5番目の書物です。

初めに申命記についていくらかのことを申しますと、まず第1は、イエスさまが特別に愛された書物であるということです。詩編とともに申命記の言葉と精神は、イエスさまの心に深く宿り、その力の源、また支えとなっていました。

具体的に言いますと、イエスが公の活動を開始する前、40日40夜断食して悪魔の誘惑に遭われました。3回にわたる誘惑の3回とも、イエスは申命記の言葉によってそれを退けられたのです。パンの誘惑に対してイエスは、「『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある」と答えられましたが、そのように書いてあるのは申命記第8章3節だったのです(マタイ4:4)。

またある律法学者が「あらゆる掟のうちで、どれが第一でしょうか」と尋ねたとき、イエスはこう答えられました。

「第一の掟は、これである。『イスラエルよ、聞け、私たちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛なさい。』」マルコ12:29-30

これは申命記第6章4~5節の言葉です。

このようにイエスさまと非常に関係の深い申命記ですが、わ

たしが思うのに、他に二つ大事な特徴があります。一つは、神の愛を強調していることです（例・4:37、7:8）。神から神の民であるわたしたちに愛が熱く注がれている。だからわたしたちも神を熱く愛して生きよう。——これが申命記の精神です。

もう一つの特徴というのは、貧しい人、弱い立場の人への配慮です。例えばこんなことが書かれています。だれかがある貧しい人にお金か何かを貸したとする。その担保に上着を預かった。その上着は日没には必ず返さなければならない。たとえ貸したものを返してもらっていなくても、上着は返す。

**「そうすれば、彼はその上着にくるまって寝ることができ、あなたを祝福するであろう。」申命記 24:13**

貧しい人が上着を失って、寒い夜にこごえることがないように、上着は返しなさい。というのです。弱い立場の人を生かし守ろうとされる神の愛が、こういう人道的な規定になって現れているのですね。

さて今日の申命記第 30 章の舞台です。エジプトを脱出した神の民イスラエルは、神に守られモーセに導かれて、ようやく約束の地の目前、ここモアブに至りました。40 年に及ぶ荒野の旅は終わろうとしています。何度も何度も危機に直面しましたが、神がここまで守り導いてくださったのです。しかしモーセは約束の地には入れず、まもなくここで死ぬことが神から知らされ

ていました。

死を覚悟したモーセは、約束の地に入ろうとするイスラエルの民に対して、遺言の説教をします。これが申命記の大枠です。モーセは、人々が厳しい荒野から豊かな土地に入って行ったとき、信仰も生活も墮落してしまうのではないかととても気がかりでした。危険に直面しているときは必死に神を求めるけれども、生活が楽になれば神から離れていくのではないか。そこでモーセはこう語りかけます。

「見よ、わたしは今日、命と幸い、死と災いをあなたの前に置く。わたしが今日命じるとおり、あなたの神、主を愛し、その道に従って歩み、その戒めと掟と法を守るならば、あなたは命を得、かつ増える。あなたの神、主は、あなたが入って行って得る土地で、あなたを祝福される。もしあなたが心変わりして聞き従わず、惑わされて他の神々にひれ伏し仕えるならば、わたしは今日、あなたたちに宣言する。あなたたちは必ず滅びる。」申命記 30:15-18

さらにモーセはこう言います。

「わたしは今日、天と地をあなたたちに対する証人として呼び出し、生と死、祝福と呪いをあなたの前に置く。あなたは命を選び、あなたもあなたの子孫も命を得るようにし、あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。」

申命記 30:19-20

「あなたは命を選びなさい。」

これがモーセの遺言でした。

時代も状況も違いますが、わたしたちの前にも、命と祝福が用意されています。と同時に、死と滅びの畏が口を開けています。わたしたちにも聖書は呼びかけています。神が求めておられます。

「あなたは命を選びなさい。」



ところで今日、わたしたちの教会は目に見える一つの恵みを神さまからいただきました。そしてそれを神の前に献げました。新しい緑のフロンタル（聖卓前掛け布）、

レクターン・フォール（聖書台前掛け布）、プルピット・フォール（説教台前掛け布）、チャリスベール等一式の聖布です。この製作のために献げられた愛の労苦を感謝します。

真ん中の十字架を見ましょう。イエスがしっかり立って手を広げてわたしたちを招いておられるようです。



これは麦とぶどうの命の実りです。「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ 11:25）というイエスの言葉を思います。

これらをこの礼拝堂に与えられたことは、上野聖ヨハネ教会の歴史の新しい1頁です。



これを見るとき、わたしたちの心に何か新しい感情が起こります。教会全体とわたしたち一人ひとりが新しくされる機会です。この時に主は言われます。

**「あなたは命を選びなさい。」**

死と呪いと滅びは、イエス・キリストが十字架において引き受けてくださいました。わたしたちの前に用意されているのは命と祝福です。

**「あなたは命を選びなさい。あなたの神、主を愛し、御声を聞き、主につき従いなさい。それが、まさしくあなたの命だ」**  
**申命記 30:19-20**

わたしたちは命を選び、神を愛して生きていきます。

祈ります。

神さま、わたしたちに、漠然とした信仰ではなく、心からあなた

を愛する信仰をお与えください。今日、新しくみ前に献げられた聖布をとおして、恵みの主であるあなたを仰がせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン